

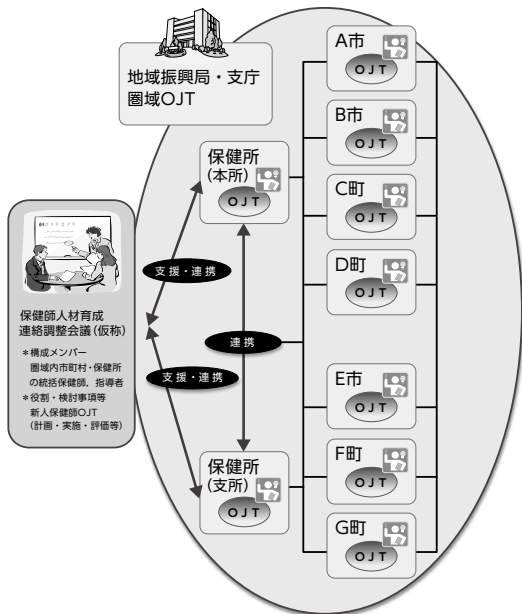
全国 保健師長会 だより

調査報告「地域が見える保健師
活動を実践するために」

鹿児島県は採用後21年以上の管理期が市町村で4割、県で6割を占めています。採用後5年未満の新任期は市町村・県ともに約2割という現況の中、新任期の現任教員に対して戸惑いの声が多く上がり、調査研究に取り組むことになりました。県内保健師へのアンケート調査とキャリア別のグループ討議の結果から、新任期・中堅期・管理期の各キャリア段階における保健師現任教員の現状や課題を把握し、離島や小規模町村を有する本県の地域特性を踏まえた現任教員体制のあり方等を検討したので紹介します。

アンケートの結果では、各期と

図 地域振興局・支庁圏域における人材育成体制



もに新任期に受けた指導で役立ったのは「家庭訪問」、必要な要素では「対人援助能力」「ネットワーク構築能力」でした。現任教員への要望が多かったのは、市町村新任期は「業務別マニュアル」、県新任期は「同世代の保健師が集まれる集会」、管理期は市町村・県ともに「現任教員プログラム」でした。

調査研究事業報告「鹿児島県支部における 『保健師現任教員のあり方』調査」 ブロック研修報告「中国四国ブロック活動 および九州ブロック研修会」

全国保健師長会 会長 加藤 静子

新任の指導を経験してよかったことは「自身の学びにつながった」「事業を見直せた」が多く、管理期で「成長した新人の姿を見ることができた」との声もある一方、困ったことでは、中堅期で「指導方法がわからない」、管理期で「自分と新人では学生時代に学んだ内容が違う」との回答もありました。

またグループ討議では、離島や小規模町村は保健師の配置数が少なく、約半数が経験年数10年未満で、指導体制が脆弱な中で即戦力が要求される場面も多く、不安を抱えながら活動している状況がうかがえました。

本県におけるキャリア段階別人材育成の強化すべき課題・方策を次のようにまとめました。△新任期▽
①対人援助技術の向上 ②地域診断、ネットワーク構築等 △中堅期▽①事業計画の計画立案・実施評価能力の向上 ②プリセプターとしての新任教育 △管理期▽①管理期としての役割認識 ②現任教員統括者としての役割認識。
新任期に限らず各キャリア段階に必要な能力が獲得できるように、地域振興局・支庁単位の広い地域・視野で市町村と保健所が互いに協力・連携し、保健師が育ち合う環境として図のような体系図を作成しました。今後は県保健師長会で研修を重ね、後進の育成にむけて具体的な方策を検討していく予定です。

中国・四国ブロックの活動紹介

(文責＝鹿児島県支部 赤瀬和代)

中国・四国ブロックは、10支部(9県1市)で構成されています。ブロック全体と各支部で研修会や検討会等を年間数回開催しています。今回、当ブロックの岡山県支部が貴重な活動を展開しましたので

報告したいと思えます。

(文責)中国・四国ブロック

理事 坂尾良美

岡山県支部便り

『保健師の継承語り』

「晴れの国おかやまから」の
出版紹介



平成21年度総会で、岡山県支部の活動をまとめた活動事例集(物語)を作成し、それを基に新任期の保健師等に保健師活動の伝承をしていくことが承認され、3年計画で取り組みました。

活動報告書や資料では、先輩たちの思いを後輩に伝えることが難しいとの意見から、保健師活動の人間関係や行為を「保健師自身の言葉・語り・物語」という視点でとらえ、先輩たちの心と行動を感じ取れるものとして作成しました。また、本事例集は、検討委員

会で保健師活動の理念・原則・役割機能の視点を議論し、その後、県下各地域からその理念等が伝わる活動として推薦された事例から、10人にインタビューを実施するなど、何度も編集作業を重ねて作り上げました。

発行後、作成意図を伝えるために事例提供者の語りによる研修会を開催しました。その語りから、先輩保健師のマインドと熱い思いが伝わり「保健師活動ってすてき！」と、元気が出る研修会になりました。

(文責)岡山県理事 宮崎裕子

平成25年度全国保健師長会九州ブロック研修会を開催

平成25年8月3日、「くまもと県民交流館パレア」において「新たな保健師活動指針の実践に向けて」をテーマに研修会を開催し、147名の参加がありました。

前半は、厚労省の尾田進前保健指導室長から「保健師活動指針と地域保健をめぐる国の動きとリーダーに期待すること」と題する特別講演と、全国保健師長会の藤原啓子常任理事から「改訂版…大規

模災害における保健師の活動マニユアル」について講演をいただき、保健師活動指針の理解を深めるとともに、日ごろの保健師の地区活動のあり方について再考する機会になりました。

後半は、県、市町村、政令指定都市それぞれの立場から活動報告があり、福岡県嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所の本忍氏から、福岡県が今年3月に保健師と管理栄養士、助産師の地域保健従事者を統合した「福岡県地域保健従事者現任教育指針」の策定と、地域保健に従事する専門職として求められる基本的資質の向上等についての効果的・効率的な教育体制づくりについて報告がありました。

鹿児島県肝付町の能勢佳子氏からは、高齢化が進み、集落の点在化や医療機関等、社会資源が少ない地域の中で健康増進の取り組みの可能性を見いだすとともに、ICTを活用した見守り体制構築等の報告があり、エネルギーをいただきました。熊本市健康づくり推進課の竹内弘子氏からは、平成24年4月に政令指定都市になったのを機に、「小学校区単位の健康まち

づくり」を全93校区で展開することを全市、全庁的に取り組んでおり、そのプロセスから保健師のリーダーの役割等についての報告がありました。



熱心に講演に耳を傾ける参加者たち

最後に、「指針を踏まえた保健活動の実践」をテーマにワールドカフェを行いました。保健師の原点や地区担当など、活発な話し合いがされ、「指針を人材育成ガイドラインに盛り込む」「職場内で指針の読み合わせをして、方向性を保健活動従事者間はもとより他の職員間でも共有したい」などのアクションプランが出されました。

そして、九州ブロック理事により「来年はアクションプランで実践したことを次期開催県の大分県で情報交換しよう」と締めくくられました。

(文責)九州ブロック 高本佳代子